



TOPIX（東証株価指数）等の見直しに関する 今後の対応方針について

2020年2月21日
株式会社 東京証券取引所

TOPIXに関する指摘の概要と対応方針の概要

■ 金融審「市場構造専門グループ」報告書におけるTOPIXに関する指摘の概要

1. TOPIXが既に年金運用や投資信託に数多く用いられている実態を踏まえ、連続性の確保を考慮しつつ、より流動性を重視する方向で企業を選定することが適当。
2. 現在TOPIXの算出に用いられている浮動株の定義を見直したうえで、新たな浮動株の定義を用いて計算される「流通時価総額（浮動株時価総額）」を基準とすることが考えられる。
3. 利益相反の懸念を排除するため、指標算出に当たって、独立性やプロセスの公平性を確保するための方策について検討を行うことが適当。

■ 対応方針の概要

1. TOPIX算出ルールの見直し

- **連続性の確保に十分に留意しつつ、流動性を重視する方向**で構成銘柄を選定する方法を検討。
- 構成銘柄選定基準については、報告書で示された水準（新たな定義による流通時価総額100億円を目的）を踏まえつつ、実際の指数算出で用いる浮動株時価総額等を用いたルールを検討。
- TOPIX算出ルールの見直しに際しては、**市場影響等を考慮し段階的な変更を含む移行計画**を策定。
- 上記と併せて、これまでのTOPIXについても、当分の間、経過措置として算出する方向で検討。
- 選定対象数に上限を設けて定期的に入替を行うことや、質的な要素を構成銘柄選定ルールに加えることの可能性についても検討。

2. 浮動株比率の算定方法の変更

- 浮動株比率の算定方法につき、諸外国の主要な指数ベンダーの取扱いを踏まえて、**より実態が定期的に反映される方式**とすることを検討。
- 現行の浮動株比率の算定方法の変更に際しては、**市場影響等を考慮し段階的な移行計画**を策定。

3. 指数ガバナンスの更なる強化

- 東証の指数算出に当たって、独立性やプロセスの公平性を更に高めるため、新たに以下の施策を実施。
 - ①「**指数コンサルテーション**」機能の導入（※詳細は「別紙」参照）
 - 東証指数に関する施策の決定に際し、指数利用者の多様な意見を聴取する機会を確保し、プロセスの公平性、透明性の向上を図ることを目的に設置
 - JPXウェブサイトにおいて、東証指数に関する施策の原案を公表し、広く意見を募集
 - TOPIX算出ルールの見直し等について、当該機能を通じた意見聴取を実施予定
 - ②「**指数アドバイザリー・パネル**」の設置（※詳細は「別紙」参照）
 - 東証指数の継続的な改善を図ることを目的に設置
 - 東証指数の利用者により構成される会議を開催

TOPIX等の見直しに係る今後のスケジュール・イメージ

第1フェーズ

(～2020年3月末)

- 報告書を受けた対応方針の概要公表(2020年2月21日)
- 「指数コンサルテーション」、「指数アドバイザリー・パネル」設置に向けた対応

第2フェーズ

(2020年4月～2022年3月末)

- 「指数コンサルテーション」の運用開始
- 「指数アドバイザリー・パネル」の設置
- TOPIX等の算出ルール変更案に係る指数利用者の意見聴取
- TOPIX等の新算出ルールの決定・公表

第3フェーズ

(2022年4月以降)

- 市場区分の見直しを受け、TOPIX等の新算出ルールへの変更を開始(市場影響等を考慮し、段階的に変更)

※TOPIX以外の東証指数についても、市場区分の見直しを踏まえて所要の対応を検討します。

※スケジュールについては、指数利用者への影響及び過度な市場影響を与えないよう配慮する必要があるため、変更となる可能性があります。